

撮影でのエピソードを
教えてください！

初めて男鹿を訪問した際、地域ごとにそれぞれ持つナマハゲへの想いや記憶のよなものがあることを知りました。そういうものをこの映画にはできる限り詰め込みたかったです。それは男性側からのナマハゲだけではなく、女性や母親・若い男性・年配の方など、それぞれの視点からのナマハゲへの想いを描かなければ

ばいけないという気持ちでした。1年目は船越・新地町内に行き、次の年は門前に、その次の年は真山地区に行きました。それとは別に相川地区や芦沢地区のナマハゲについても直接話を伺いましたが、それぞれの強い思いを感じることできました。

克蘭クインは、雪の場面を想定し1月下旬にしましたが、今年は暖冬で雪がありませんでした。でも今は「雨でよかった」と思っています。地面が濡れたり、松明の火が反射したり、また、主人公・たすくが問題を起こしてしまいますけど、あれも雨だからこそ張り詰めた空気というか……。あれが雪だったら温かみが出てしまい、また違ったのかなと感じています。ラストシーンにしか雪が降らないという演出も、結果的にこの映画を良くしてくれたのかなと思います。

佐藤監督を応援する会の
支援はどうでしたか？

地元有志の方々による応援する会の皆さんは、ご飯や物資の支援、協賛のとりまとめのほか、作品の内容をしっかりと読み込み映画の伝えたいことをしっかりと理解してください、まさに一スタツフとして支えていただきました。

全ての面でバックアップしてください、とても恵まれた環境で撮影ができたと思います。商業デビュー作でオリジナル作品にもなる、もつと難しかったり苦しい思いをしたりする監督もいると思いますが、自分は本当に楽しく、これから映画作りをしていく上で必ず支えになるような撮影の日々を過ごさせていただきました。それは男鹿の皆さんのおかげだと感謝しています。この映画では入道崎や鶴ノ崎海岸など、この5年間で回って自分が心惹かれた風景を撮影できました。エキストラの方たちも含め

て、映画の制作チームと皆さんとの距離の近さがこの映画には写ってる気がしているの、本当に良かったです。

「ここは見逃せない」という
シーンを教えてください

ラストシーンです。

あのシーンがうまくいかなければ、それまで撮ってきたものも無駄になってしまふというようなシーンだと思っています。そのシーンのために全キャスト・スタッフの皆さんが協力してください、と思いますし、あの時の集中力や緊張感はこの映画を作らなければ感じることのできない空気でした。ラストシーンは一発撮りでしたが、2・3回やっていたら、あのようないなかなかなっていません。今までの日々が集約されたシーンになりましたので、そこは見逃さないで見てほしいですね。

